

昔から変わらぬ祭り愛

絵巻や新聞記事などを開いてみると、多くのことが読み取れました。
長い歴史の中の出来事をお伝えします。



『伊曾乃神社祭礼略図』。伊曾乃神社の宝物館で見られます

長い歴史を持つ伊曾乃の祭り

毎年10月、計80台以上のだんじり・みこしが練り歩く伊曾乃神社祭礼。天保時代（1831～1845年）に制作の絵巻2本（神社蔵『伊曾乃神社祭礼略図』、東京国立博物館蔵『伊曾乃神社祭礼細見図』）から江戸当時の祭礼の様子が伺え、古文書から約300年も続いていることが分かります。

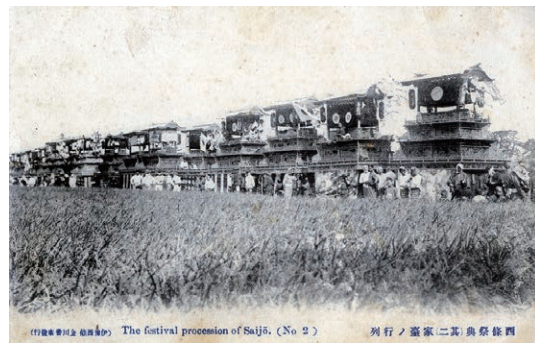
伊曾乃神社祭礼は、一神社の祭礼として屋台数日本一。天保時代から20台を超える屋台を誇り、だんじり18台、みこし5台、人物約440人などが描かれる『伊曾乃神社祭礼略図』は、西条藩主がお国自慢として仙台に贈ったものとして伝えられています。明治、大正、昭和初期、昭和50年代の新調ブームを迎えながら、現在、屋台数81台となりました。

祭礼の中止は過去にも

地域が誇りを持って屋台を担ぎ続けてきた祭りですが、だんじり・みこしの奉納の中止は今回が初めてではありません。将軍や天皇の不幸、戦争、悪天候などのほか、伝染病でも自粛・中止を余儀なくされました。

明治には赤痢やコレラのため中止や無期延期に。コレラが流行した大正5年にも、西条では延期か実行かで意見が分かれ、今という市長が氏子へ説得に向かい2回目の説明で無期延期に納得となったそう。

「豊作や疫病退散を願う祭礼だからこそ、祭りをやりたい」というような思いが、昔から変わらず西条の人の心にあることが伝わってきます。



明治末期の伊曾乃の祭りの絵葉書（松岡伸安氏所蔵）

屋台数の推移（伊曾乃神社祭礼）

天明6（1786）年	だんじり12 計13台
天保13（1842）年	みこし（傘鉾）1 計23台
明治35（1902）年	だんじり19 計27台
大正14（1925）年	だんじり23 計33台
昭和3（1928）年	だんじり29 計37台
昭和9（1934）年	だんじり33 計40台
昭和15（1940）年	だんじり36 計44台
昭和40（1965）年	だんじり40 計34台
昭和48（1973）年	だんじり30 計40台
昭和54（1979）年	だんじり37 計45台
昭和60（1985）年	だんじり42 計72台
平成元（1989）年	だんじり69 計79台
令和元（2019）年	だんじり75 計81台
	だんじり77 計81台

参考

『西条市生活文化誌』
ふる里の祭り
『愛媛まつり紀行』
流行病と祭礼

西条市
佐藤秀之
愛媛県歴史文化博物館
平井 誠

伊曾乃の祭り

いつもと違う秋

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため全国各地で祭りの中止が発表される中、7月、西条まつりで最大の規模を誇る伊曾乃神社例大祭でも統一運行の中止が決定。神事のみ、規模を縮小して行われます。

太鼓の練習の音も聞こえず、いつもと違う今年の秋。今こそ秋の祭りについて、見つめ直してみませんか。



上・明治期のお宮入り（松岡伸安氏所蔵） 下・令和元年の川入り前

「好き」が歴史を支える

西条の祭りを話す際には欠かせない、だんじり彫刻と伊勢音頭。
そして伊曾乃神社例大祭に見られる鬼頭。^{おにがしら}関わる皆さんに、その思いを伺いました。

人を魅了する彫刻細工

今年、新調お披露目予定だった北之丁上組のだんじり。彫刻を担うのは、33歳の若き木彫師・杉森哲明さん。専門学校卒業後、富山県で「井波彫刻」を学び、4年前に地元・氷見で工房を開きました。

杉森さんが彫刻に関心を持ったのは中学生のころ。「だんじりについて回るうち、自分でも彫ってみたくて、自分でも彫ってみました。特に関心したんです。特に好きな川原町が井波彫刻で、そこに弟子入り。5年間の修業で辛いこともあったけど『絶対にだんじりを作るんや』って思いで何とか乗り越えました」と、はにかみます。



彫刻に使用する200本以上のノミ。使い分けて繊細な彫りとなる

「新調として、丸一台を制作するのは今回が初仕事。依頼は嬉しくも、相当なプレッシャーを感じてます」と杉森さん。「彫刻って百年以上持つんです。現行が約90年の歴史があるもので、地域の人がずっと見て育ってきたものをリニ

一世紀先まで残るものを作る重責

ユールする。そして作ったものが、また長い間そのだんじりとして見られていくって、すごく重たいですよ。だからこそ地元の人に受け入れてもらえる良いものを作る、とノミを持つ手に力が入ります。

井波彫刻の魅力は、彫りの繊細さ。「1台の制作に必要な彫刻は百枚以上。1年以上の月日を掛けて彫り進めている彫刻を、ぜひ来年楽しんでほしいです」と話します。また「彫刻と地の赤色の見え具合が全体を整えます。遠目で見たときのその美しさ、空間の見せ方にも注目してみたい」と教えてくれました。



いしづち彫刻店 木彫師 杉森哲明さん

胸が躍る太鼓の音

「西条の伊勢音頭のリズムは全国一」。そう話すのは上岡利夫さん。伊勢音頭の地元への定着と、伊勢との関係作りに尽力してきました。

「西条の祭りでさかんに伊勢音頭が歌われ出したのは明治の末ごろ」と上岡さん。「西条のが何がいいって、この早いリズム。伊勢音頭は伊勢祭りの歌として全国1600以上の地域でいろんな形で進化・定着したとるけど、このリズムは西条だけのもの。一緒にだんじりを担いでたら、耳に入って、いつの間にか歌えとる。だからお年寄りから子どもまで、この歌にふるさとを感じられるんよ」。

また、上岡さんたちが伊勢音頭を広めようと昭和50年代に始めた「伊勢音頭大会（現・伊勢音頭フェスティバル）」が伊勢とのつながりのきっかけに。「伊勢に大会のことを



昨年の伊勢音頭フェスティバル。23の町内が参加した

伊勢は祭り人生の心のふるさと



西条祭り伊勢音頭連合会 上岡利夫さん

知らせた翌年、見に来てくれて『ぜひ向こうでも歌ってほしい』ってなったんよ。昭和62年、伊勢神宮のお木曳き行事にだんじり17台と800人で行ったら、約千人の伊勢市民の人らが沿道から旗を振って出迎えて、心からのおもてなしをしてくれた。これに僕らも感動し、今も縁が続いとんよ。お祭りの日に伊予西条駅の前で赤福を売りよんも、この縁があるからなんよ」と教えてくれました。「今では市内でもようけ歌われて、太鼓のリズムも受け継がれとって、うれしいね」とにっこり。「これからは祭り歌とは違う進化もしてもいいかも。そうして、もっとみんなの

運行を守る鬼の役

胸に残る『ふるさとの歌』であってほしいね」と、話してくれました。

「伊曾乃神社例大祭の運行を守る、鬼頭。今は25人程で役を担っていますが、約半数は世襲。私も少なくとも4代目で、22年前に父から鬼の面を引き継ぎました」と一色信之さん。主な役目は、関係者との打ち合わせや昇夫番号札の作成、お旅所などのだんじりの場所を表示するロープ張りなどの準備、川入りまでの時間調整、運行中の誘導・警備など。「だんじりの台数が増えた近年は川入りが遅くなりがち。ルートの変更など、時代に沿った形で地元の人たちと調整しつつ、神事の根幹を守るため、がんばっています」。



一色さんが継いだ鬼の面。明治14年と書かれた札が付いている

録には残ってない。でも『伊曾乃大社祭礼略図』に、鬼の面を被ってじゅばんに白い房を

地域みんなで作り上げる祭りの日

付けた姿が描かれてて、300年の歴史の中における役なんやと分かります。『なんでこんな大変なことしょんやろ』と思うこともあるけど、歴史ある神事をつないでいくためにも私らみたいな役が必要なんやろね」と、優しい目で見つめます。



伊曾乃神社 鬼頭会長 一色信之さん



(右から) 繊細な井波彫刻で彩られた川原町のだんじり。平成18年の伊勢神宮のお木曳き行事にはだんじり32台、1,600人が参加。『伊曾乃大社祭礼略図』に描かれた鬼頭





意味を見つめる特別な年

今年の例大祭は規模を縮小し、神事のみで開催を決めた伊曽乃神社。特別に動画での配信が予定されています。伊曽乃神社の堀川宮司と、配信を行う明比さんに話を聞きました。

神事を見る



伊曽乃神社チャンネル

伊曽乃神社例大祭神事がYouTubeで生配信されます。例大祭出御祭や各校区での神楽所祭など、ぜひお家で一緒にお参りください。

配信日時（予定） 10月15日（休） 6時30分～17時
※詳しいタイムスケジュールなどは、当日の配信でご確認ください。

※天候や感染状況、機材の状況などにより変更となる場合があります。



YouTube 伊曽乃神社チャンネル 検索

祭りを知る

西条市 こどもの国



実物の江戸時代のだんじり・みこしや昭和の名品、西条祭り絵巻の写真複製版などを近くで見られます。歴代の西条まつりのポスターも必見！

アクセス 西条市明屋敷131-2

開館時間 9時～17時（入館は16時30分まで）

※月曜日休館

問合せ Tel.0897-56-8115

※こどもの国展示館は、施設リニューアルのため10月31日（土）で閉館します。令和4年7月に複合施設としてリニューアルオープン予定です。

意味を理解し、より良い祭りに

神事には全て意味があります。15日に神様をお迎えするために神社に出向き、その後「お祭りが始まったよ」と町中に触れて回るのがだんじりとみこしの役割。16日は御神輿の露払いとして「神様が通られるよ」と知らせる先導とお供をします。一番知ってほしいのが川入りの時間。当社の御祭神は天照大神。太陽の神様だから、お祭りも日の出とともに宮出しして、日の入りとともに宮入りするのが本来の姿です。「日

が落ちて、提灯がともった方がきれい」という声もあるけど、伊曽乃の祭りでは、普段は神社に鎮まられる神様が町々の様子や人々の暮らしをご覧になったら、日のあるうちに川でお清めしてお還りいただきたい。そのためには、誰もが同じ氏子として知恵を出し協力し合うことが必要です。祭りは、地域の人々が主人公。老いも若きも男も女もみんなで作上げるもの。時代時代で変化はあるけれど、大切な根っこは残していく、という思いを胸に毎年の祭りを精一杯楽しみましょう。

今年だからこそその祭りの形

西条の人は本当に昔から祭り好き。大正時代にコレラがはやりお祭りはお宮だけでって言われたときも伊曽乃は最初「やる」って返事をしたし、終戦後にGHQがやるなって言うたときも、こっそりだんじりを出したところもあった。それだけ好きで楽しみにしているお祭りを、いつもの形で斎行できないのは非常に残念です。コロナウイルスの情勢が変わらなければ、規模は縮小するけれど、五穀豊穡に感謝し、疫病退散を祈るた

めにも神事は行います。トラックに乗せた御神輿で例年2日で巡るコースを15日の1日で回ります。神楽所は各校区につき1カ所、感染防止のため神楽に参列するのは一部の人のみ。御神輿が巡るコースは2トン車を通れる道に限られますが、できるだけいつもの道を予定しているの、神様が通られるところを見てもらえたら。太鼓の音が聞こえたら、ぜひ道中で拝んでください。ある意味今年だけの特別な形ですから、祭りのことを伝えたり、意味を考えたりする機会にしたいと思いますね。

みんなが主人公で作る祭り 意味を知り後世につなぐ



伊曽乃神社 宮司
堀川修巧さん

今年の祭りを 地域に届ける

西条まつりを撮り続けて26年。今年、統一運行がなくなり、何かできることはないかなってずっと考えてました。そこで伊曽乃神社に提案したのが神事の中継でした。こんな時だからこそ「地域に神様に回って来てほしい」と思っている人が多いんじゃないかな。神事は行うけど、人は集められん。それなら動画で伝えよう、って思いついたんよね。インターネットで配信することで、帰省できん人にも届ける事ができるし、映像会社として地元の祭りに役立てることがうれしいです。

東予ビデオとしても中継は初めての試み。僕は子どものころからずっとだんじりをやってきて「自分が一番祭りが好きや」って思っているから、祭りをする一員として、今年もビデオを回します。

今やったら、YouTubeを見られるテレビも多いですよ。今回の中継を通して、年配の方と、お子さんやお孫さん、近所の若い子らが「どないしてやるんや」って



東予ビデオプロジェクター
代表 明比賢則さん

交流してもらえたら。それで一緒のものをみて「こういう意味があった神様が回るんよ」なんて、家族や地域で話すきっかけにもなればええですね。